

● CNC P はあなたが参加し楽しく議論し活動する場です ●

シリーズ「土木ということば」

第 9 回 近代辞書と「築土構木」

夏目漱石は、新時代の言文一致体の小説を書き、また優れた漢文、漢詩を書いたという。東北大学「漱石文庫」には蔵書だった近代辞書が残されている。

1896 年版『言海』（明治 29 年、第 10 版）第五高等学校教師時代

1900 年版『ウェブスター大辞典』（明治 33 年、London 版）英国留学時代

1905 年版『漢和大字典』（明治 38 年、第 4 版）『吾輩は猫である』発表年

国語辞典『言海』の編者大槻文彦は、明治以降大量に舶来したウェブスター辞書に学び、発音表記、品詞表示、語源説明、語釈、出典などを取り入れた。

『言海』（明治 24 年、1891 年）ど-ぼく（名）土木 普請。作事。

三省堂編輯所の斎藤精輔もウェブスター辞書を手本にして画期的な漢和辞典『漢和大字典』を出版した。特徴は、大辞書を目指したこと、漢詩作成の「韻」の便宜のために熟語は末の字を親字としたこと、監修者と実質的な編集者を分けて作成したこと、官製、学術用途ではなく純粋な商品としたこと、等である。

『漢和大字典』（明治 36 年、1903 年）〔土木〕（い）つちときと。○〔後漢〕「——形體、不自藻飾」（ろ）建築。○〔淮〕「築一構一」。

ここに現代にまでその影響をとどめる「土木」の二つの語釈がそれぞれ出典を伴って提示された。ただし、前者は後漢書ではなく『晋書』、土木形體ではなく「土木形骸」。後者は『淮南子』の「築土構木」が「建築」の意味で「土木」の語源のように示されるが、昭和以降現代の漢和辞典では採用されていない。
（土木学会土木広報センター次長 小松 淳）

Vol.57 コンテンツ

巻頭言	改めて「土木は市民工学」	山本 卓朗	2
コラム	地方創生のキーワード“元気なジィジィ、バァバァ”	大田 弘	3
オピニオン	東名高速道路「あおり運転」事故判決に思う	吉川 良一	5
トピックス	JFMA 公共インフラマネジメント連続シンポジウム報告（2）	鈴木 泉	7
NEWS 1	展示会出展『社会インフラテック 2018』	小重 忠司	9
NEWS 2	世の中の社会課題を本業で解決する CSV 事業	高橋 肇	10
土木と市民社会をつなぐ	第 1 回 シリーズ開始にあたって	山本 卓朗	11
会員紹介	特定非営利活動法人 建設技術監査センター	五艘 章	13
部門活動紹介	協働推進部門—初級ファシリテーター養成講座開講—	足立 忠郎	15
会員からの投稿	都市再生推進法人『株式会社まちみとらボ』	三上 靖彦	17
サポーターからの投稿	桑名市における「アセットマネジメント」の取り組みについて	伊藤 徳宇	19
事務局通信			21